

現地講座 鴨東の遺跡

—近衛中学校内の発掘調査現場見学と京都大学構内の遺跡をめぐる—

2019年10月26日(土)

- ①近衛中学校(集合・説明後、スタート) → ②学友会館 → ③地点(埋文研2016年度) → ④地点(京大2013年度) → ⑤地点(京大1995年度、図の11) → ⑥地点(京大1982年度、図の10) → ⑦地点(京大2015年度) → ⑧地点(京大2001年度、図の9) → ⑨本部正門 → ⑩文学部陳列館 → ⑪北白川廃寺移築基壇 → ⑫尊攘堂 → ⑬京都大学総合博物館(解散)

〈国・登録有形文化財〉

② 楽友会館

【構造形式】鉄筋コンクリート造2階建, 瓦葺

【設計施工】設計: 森田慶一/ 施工: 清水組

【竣工年次】大正14年

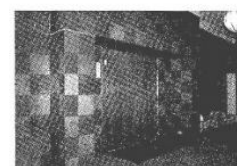
京大創立25周年を記念して大正14年に建てられた同窓会館。鉄筋コンクリート造2階建て、スペイン瓦葺き寄せ棟屋根。東西方向の棟と南北方向の棟を組み合わせたL字形平面を採る。東西棟に事務室、会議室等を取め、南北棟の1階に食堂、2階に宿泊室を配した。建築面積715㎡。

設計者の森田慶一は、東京帝国大学在学中分離派建築会の一員だった人物で、大正9年に卒業後、内務省技師となっていたが、同12年に京大に助教授

として招かれた。この建物は武田五一が基本設計を済ませていたが、仕上げをまかされた森田が自分流に手を入れて全部変えてしまったといわれる。ポーチの丸いひさしとそれを支えるY字型の柱は日本における表現主義造形の典型例であり、今日の目から見ても新鮮である。内部は、近代家具デザインの開拓者として知られる森谷延雄(1893~1927)によるところが大きい。現在、高等教育研究開発推進センターとして用いられる。(石田潤一郎)



外観



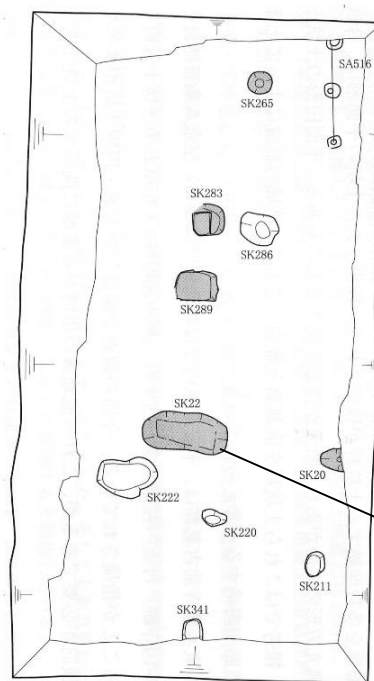
1階会議室



③地点(京都市埋文研2016年度調査 京都近衛リハビリテーション病院)



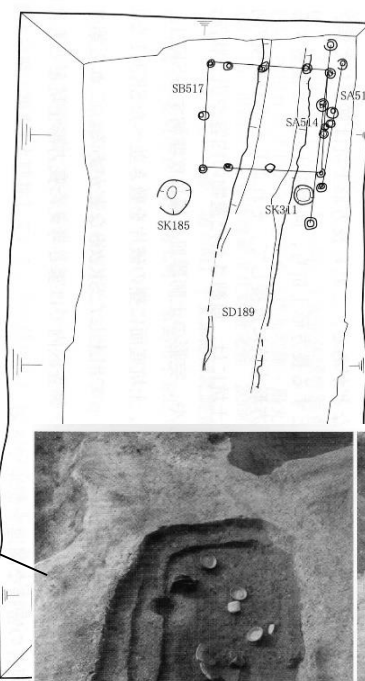
1期 12世紀後葉から14世紀前葉



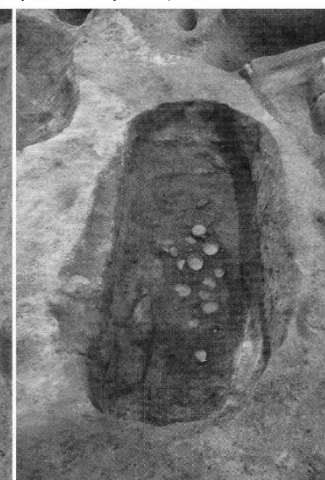
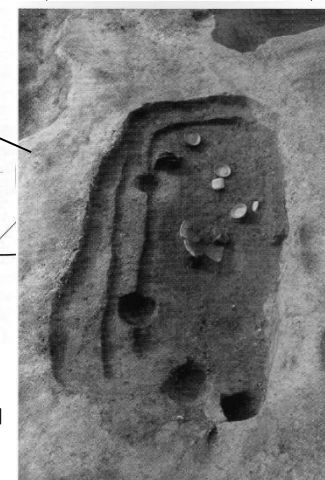
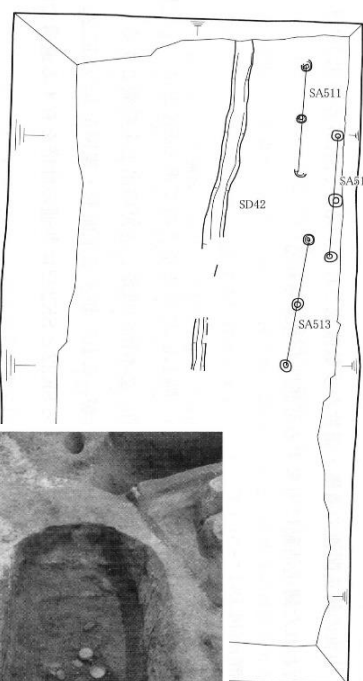
12世紀後葉~13世紀前半
13世紀後半~14世紀前葉
主要遺構変遷図



2期 14世紀中葉から後葉



3期 14世紀末から15世紀



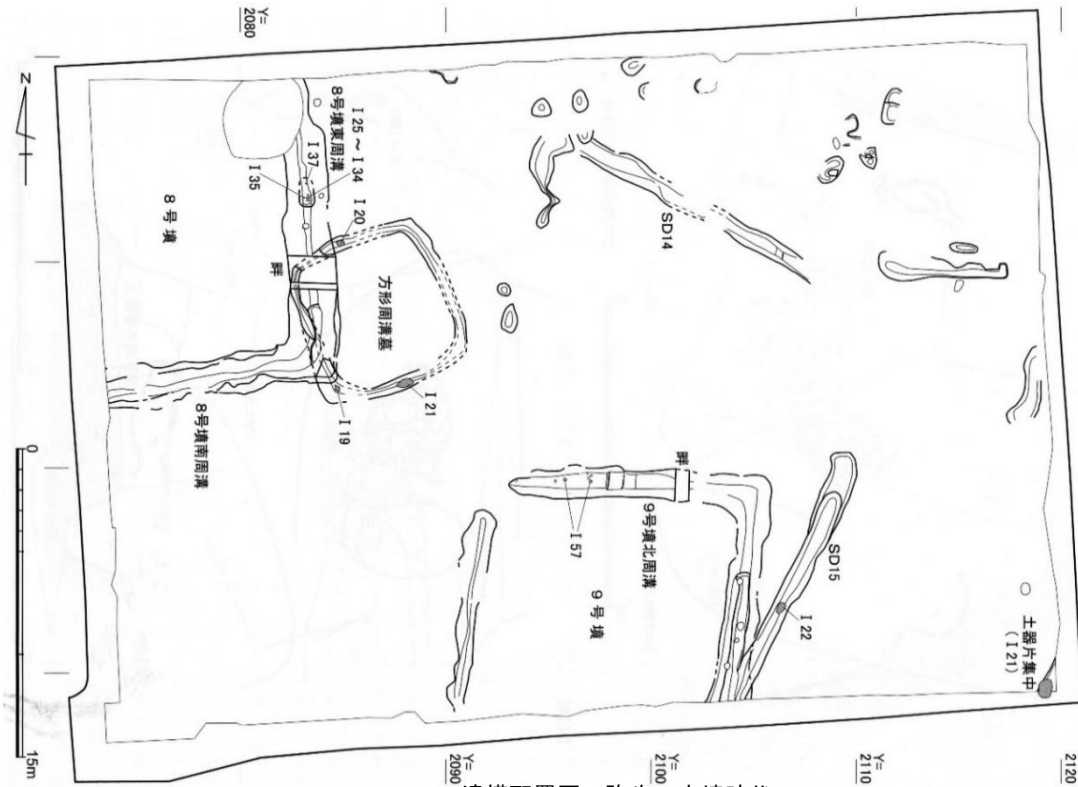
SK22: 長方形の穴に土器が埋納された墓と推定される遺構。



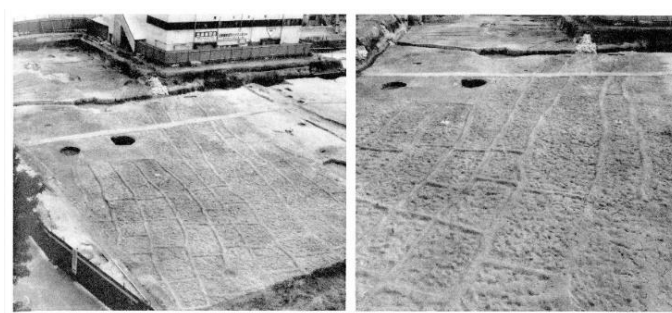
- 1 平安時代中期土器・陶器の一括出土
- 2 鎌倉時代前期の火葬塚
- 3 平安時代中期の埋納遺構
- 4 鎌倉時代土師器皿の大量廃棄
- 5 中世白川道の路面遺構
- 6 鉄鍋や摺鉢を用いた鎌倉時代の墓
- 7 奈良時代の竪穴住居(現地保存)
- 8 鎌倉時代の邸宅跡(吉田泉殿)
- 9 平安時代後期の経塚遺構
- 10 平安時代中期の梵鐘鑄造坑(現地保存)
- 11 室町時代オオヤツカサ土器の大量出土
- 12 奈良時代の井戸
- 13 鎌倉時代前期の梵鐘鑄造遺構
- 14 平安時代後期六器鑄型の出土
- 15 平安時代後期人面墨書土師器皿の出土

④地点「吉田南AN21区」『京都大学構内遺跡調査研究年報 2013年度』
 弥生時代中期の方形周溝墓 古墳時代中期の方墳

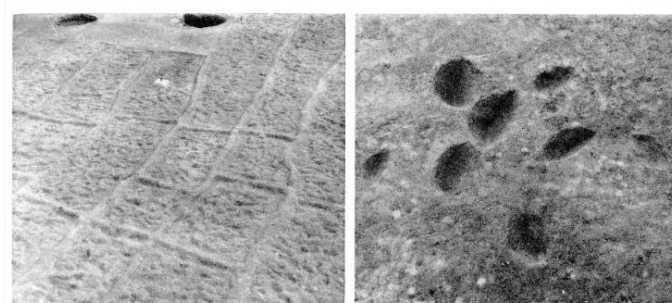
⑤地点「総合人間学部AO22区」『京都大学構内遺跡調査研究年報 1995年度』
 弥生時代の水田 古墳時代中期の方墳 平安時代の梵鐘鑄造遺構



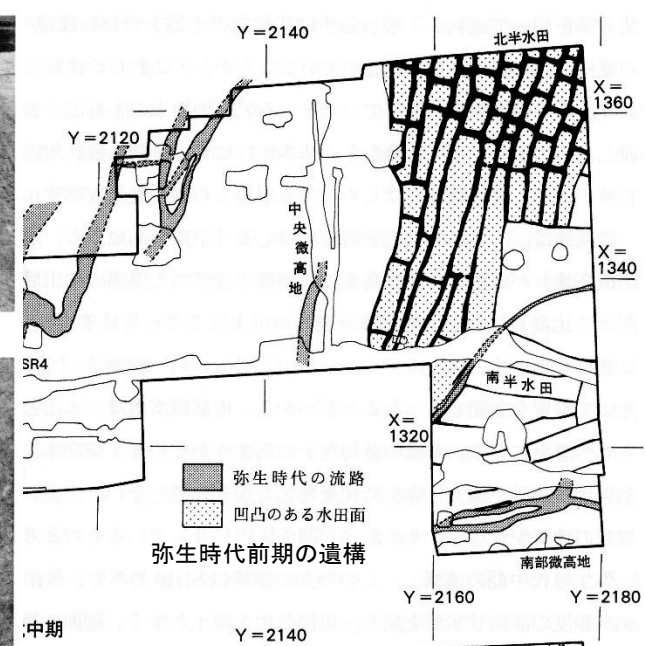
遺構配置図 弥生・古墳時代



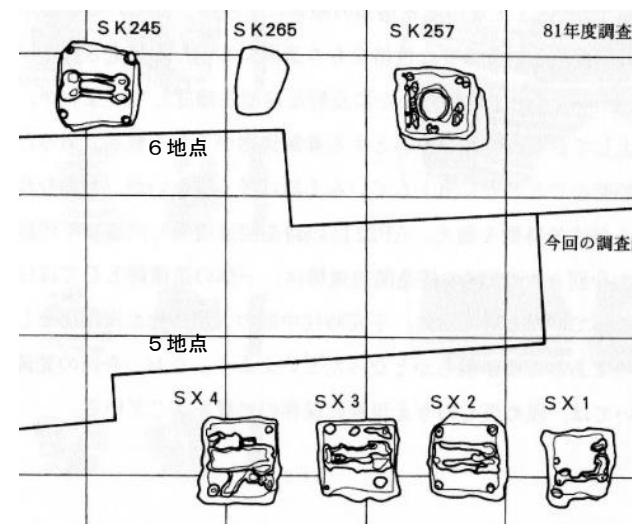
1 水田域全景(1) 北東から 2 水田域全景(2) 北から



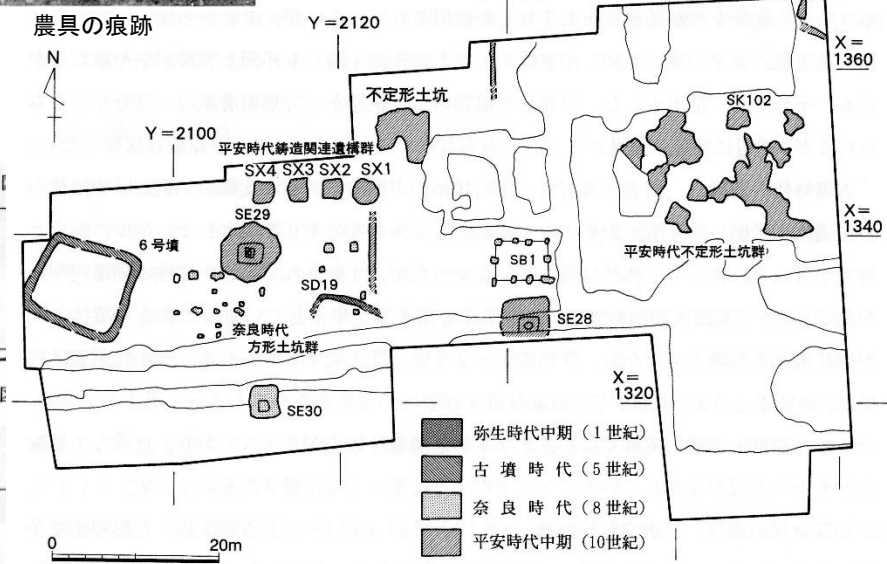
弥生時代の水田畦畔 農具の痕跡



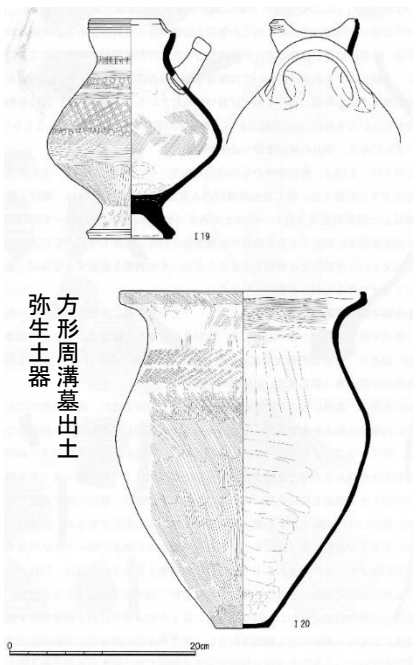
弥生時代前期の遺構



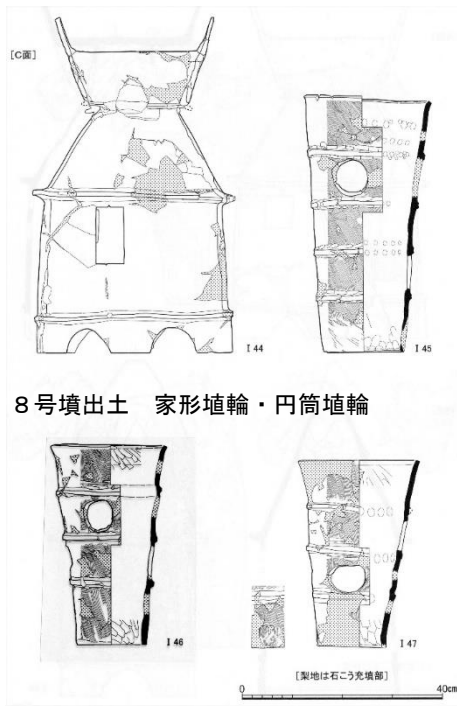
平安時代の梵鐘鑄造遺構の配置図



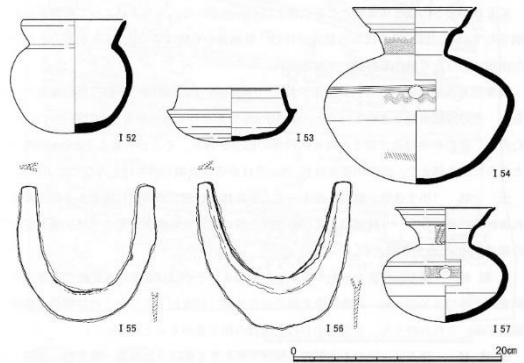
主要遺構変遷図



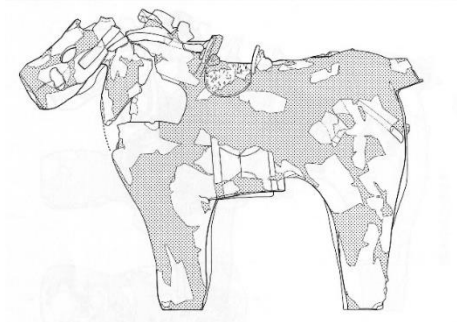
方形周溝墓出土 弥生土器



8号墳出土 家形埴輪・円筒埴輪



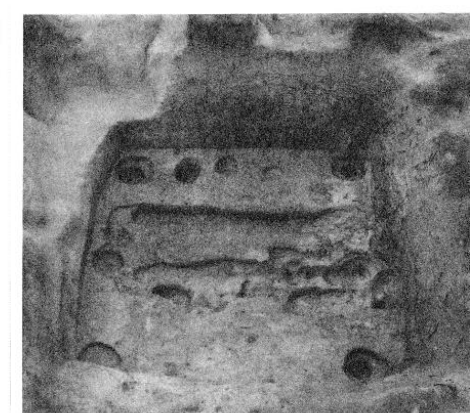
9号墳出土 土器・鉄製品



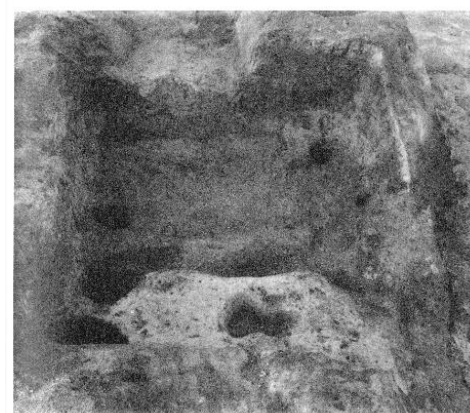
8号墳出土 馬形埴輪



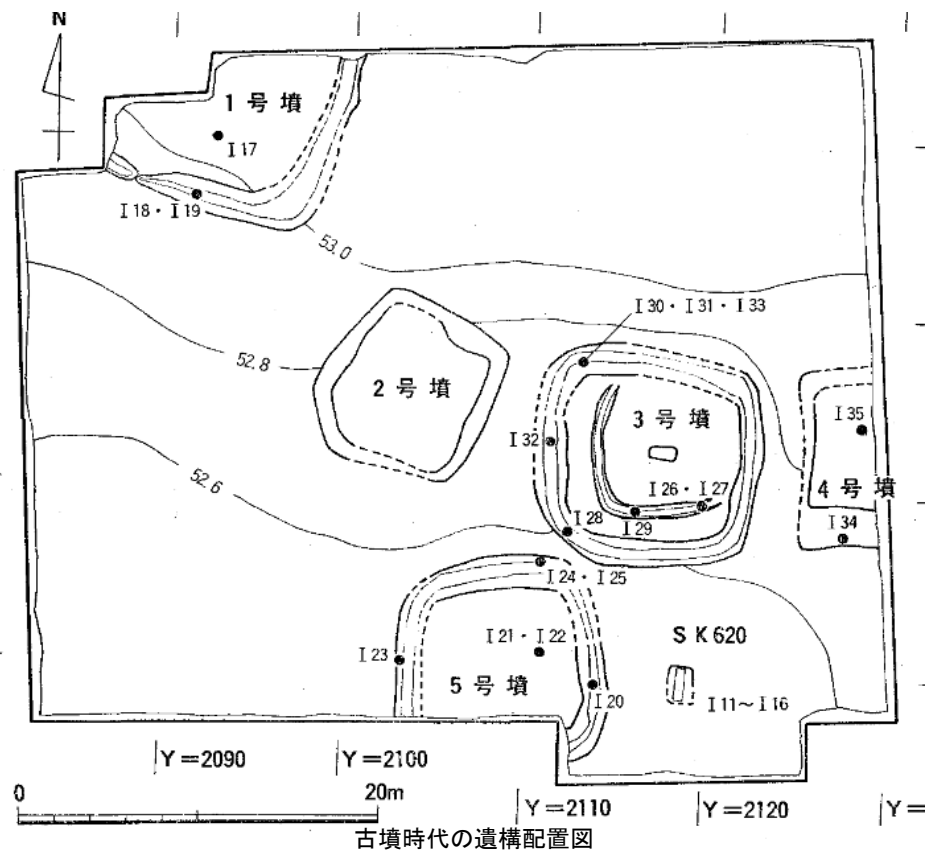
S X 3 平安時代の梵鐘鑄造遺構



S X 2



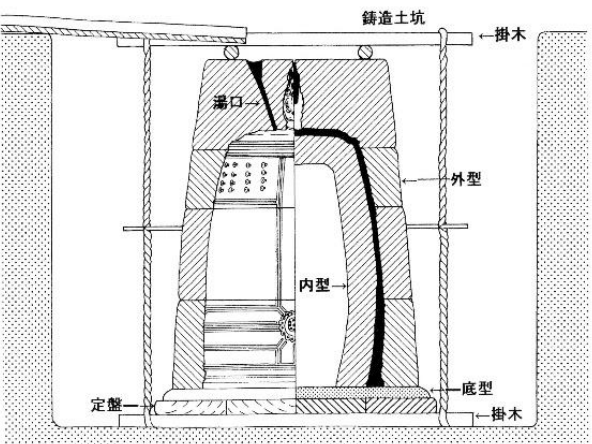
S X 1



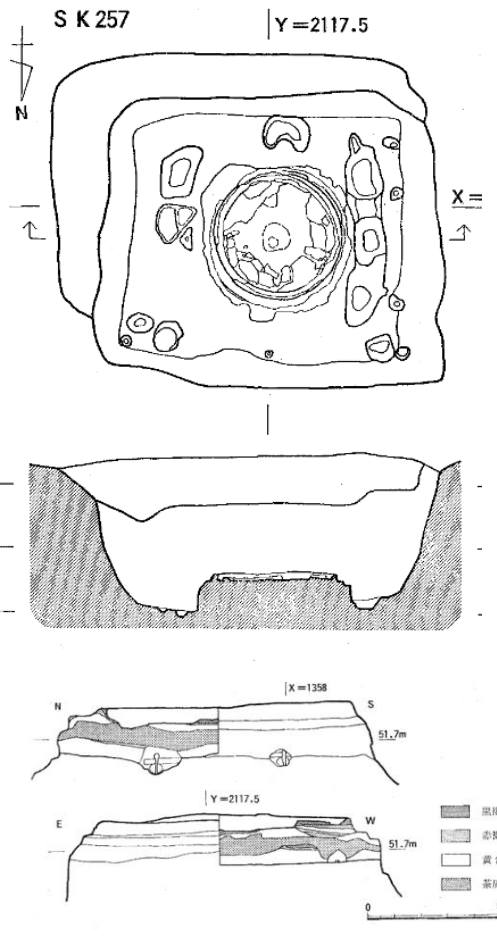
『足もとに眠る京都』平成30年度企画展



59 定盤の残る梵鐘鑄造土坑 北から 吉田南構内 1982年



梵鐘鑄造遺構 S K 257
上は検出状況、下は鑄造の模式図

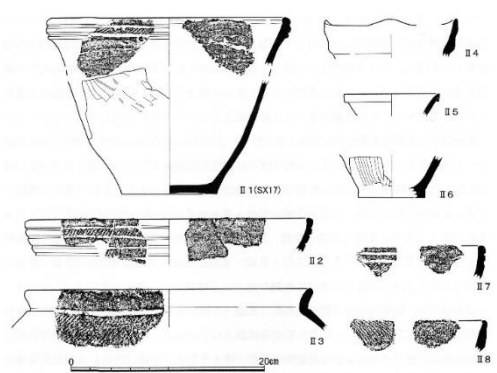


梵鐘鑄造遺構 S K 257
上は平面図、下は断面図

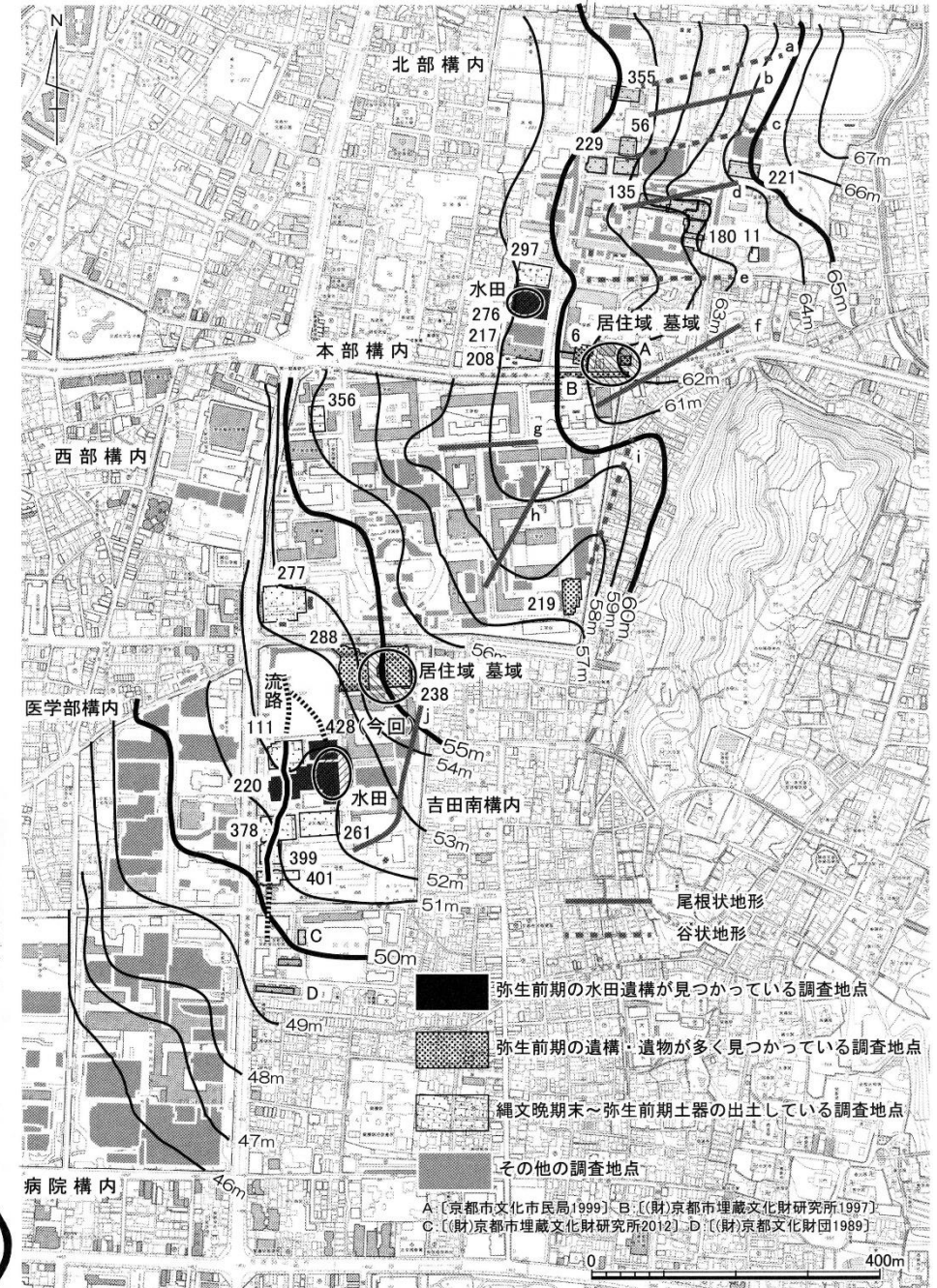


弥生時代前期・中期の土器(壺)

縄文時代晩期の土器

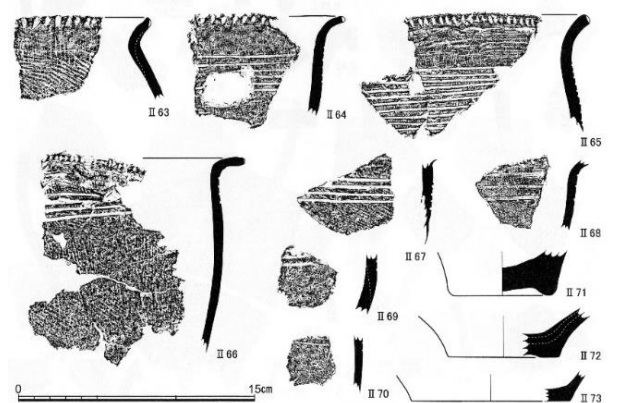


資料3

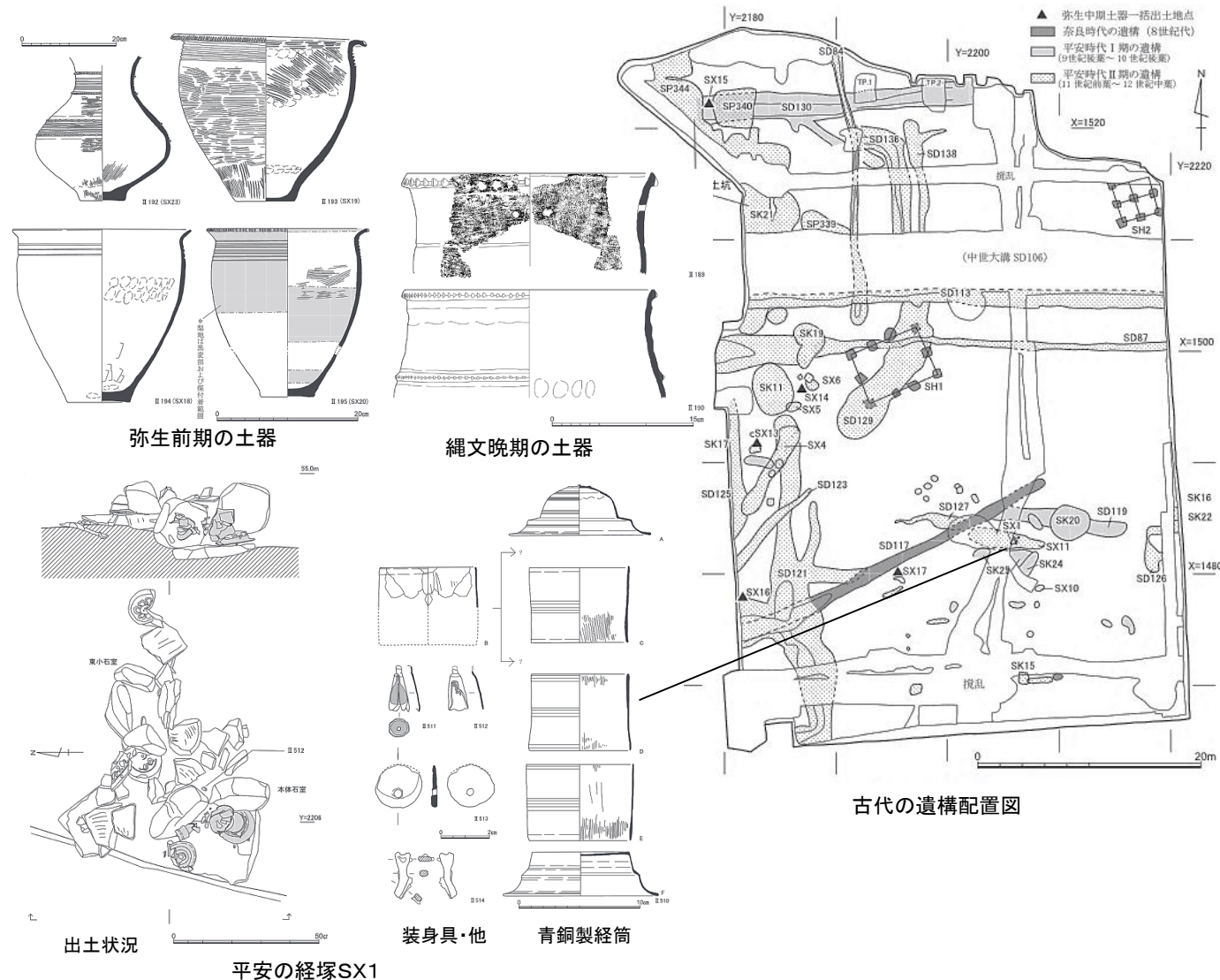


弥生時代の水田と居住域の広がり

弥生時代前期の土器(壺)



⑧地点「吉田南AR24区」『京都大学構内遺跡調査研究年報 2001年度』
 弥生時代中期の土坑 平安の経塚



〈国・登録有形文化財〉
 ⑨ 本部正門 (旧第三高等学校表門)

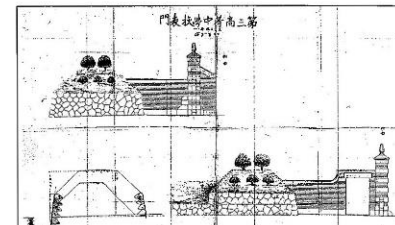
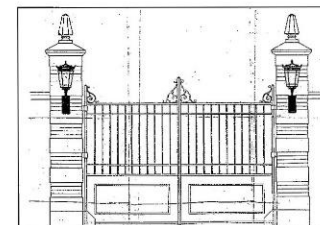
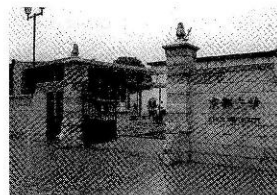
『京都市の近代化遺産』2006年

【構造形式】煉瓦造
 【設計施工】設計：山口半六、久留正道
 【竣工年次】明治26年

第三高等学校は明治22年に京都移転を果たす。大半の施設はこの年に建設されているが、この表門はわずかに遅れて26年に完成した。設計は建物と同様、山口半六・久留正道である。現在は全体をモルタルで包まれているが、これは大正期の補修によ

るものであって、当初はレンガを露出し、そこに帯石を縞状に配していた(現状でもその凹凸は保たれている)。また、門柱からはランプが突き出していた。門柱間は約4.4m、柱高さは笠石下まで約3.9m。

(石田潤一郎)



〈国・登録有形文化財〉
 ⑩ 文学部陳列館

『京都市の近代化遺産』2006年

【構造形式】煉瓦造／鉄筋コンクリート造(昭和4年増築部分)2階建、瓦葺
 【設計施工】設計：京大建築部(担当：山本治兵衛、永瀬狂三)／施工：直営(昭和4年度：津田甚組)。
 【竣工年次】大正3年／大正14年／昭和4年

京大文学部が所蔵する貴重な古典籍や埋蔵文化財を収蔵展示する施設として、大正3年に建設が開始された。ただ、予算が断続的にならなかつたため、平面がロ字型に閉じて完成を迎えるまでに15年を要した。建築の南半分は大正3年にかかるもので、東側中央部が大正12年、東側北半が同14年の建設、残る北西部分が昭和4年の建設である。煉瓦造で工事を進めてきたが、歳月の経過を反映して昭和4年の建設にかかる部分は鉄筋コンクリート構造を採用している。

法や軽い鉄製のポーチは、ほのかな遊戯性をも感じさせる。昭和60年に新しく文学部博物館(現・総合博物館本館)が建設されるにあたって除却の危機に立たされたが、南・東の2面を保存したうえで新築を進めることで決着した。現存する部分の建築面積732㎡。

(石田潤一郎)

設計は山本治兵衛と永瀬狂三で、山本が主導したと見られる。施工は直営による(昭和4年度分は津田甚組)。

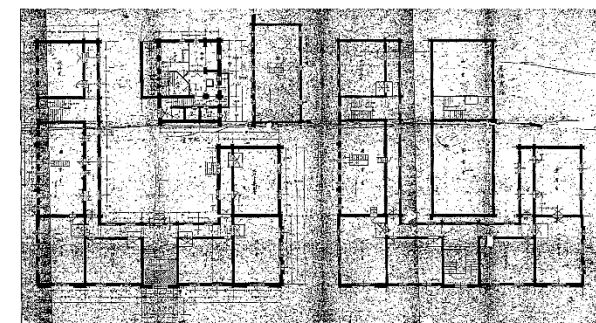
中央部とコーナー部にペディメントを配して立面のポイントとし、モルタル目地切り仕上げの外壁で格式の高さを演出する。さらに屋根窓と棟上の小塔でスカイラインをにぎやかに飾っている。京大構内では際だって華麗な意匠であり、山本治兵衛の別の一面を見せる。単に重厚だけでなく、ペディメントにキーストーンとプル・アイ(小円窓)が食い込む手



外観



階段



平面図